

# 市仏連会報

発行所  
 横浜市中区大平町96  
 光明山西有寺内  
 横浜市仏教連合会  
 電話(045)661-0166

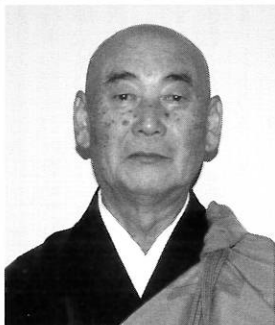


平成二十三年四月、大本山総持寺前貫首大道晃仙禪師が退任なされ、江川辰三新貫首が晋山



## 市仏連名誉会長に 江川辰三禪師ご就任

前恭忍会報担当理事であり、親しく接見応待を賜り、『我達人』のご染筆を頂戴しました。



今年日本列島にとって最大の難関の年となってしまいました。忘れることのできない三月十一日

された。慣例により、市仏連名誉会長に就任され、五月三十日、推載状をお届けた。  
 お伺いしたのは、玄野孝善会長、横山正彦副会長、林田真成専務理事、秋山智謙会計、備

### 立ち上がろう日本列島

横浜市仏教連合会  
 会長 玄野孝善

の東北の大地震。ちょうどその日は横浜市仏教連合会の役員会の日で、西区の勸行寺さんで市仏連会報特集号の発送作業を行うことになっていましたので、役員の皆さんは集合していただきました。午後三時開会でしたので、私も勸行寺さんのすぐ近くにいましたが、二時四十六分、突然の振動でんだこりやと思いました。ちょうど赤信号で止まっていたのですが、信号機も電線もブラブラで沿道の



我達人(がほうじん) 我人と逢う人との出逢いの尊さを三文字で表した好きな言葉です。心と心の出逢い、物と物との出逢い、出逢いこそ命です。  
 道元禪師様は、「まのあたり先師を見る。これ人に逢ふなり」と、如浄禪師様との出逢いを伝えていきます。 江川辰三

ビルからは避難しようとして、道路いっぱいには人が出てきました。勸行寺さんについて車のテレビをつけて初めて東北の大地震ということがわかりました。私は多くの荷物がありましたので、送ってもらい車は帰してしまいました。その後再び大きな揺れがきました。一同庭に飛び出しました。そこへ勸行寺さんの奥様が来られて、「ここは岩盤ですから大丈夫です」と言われましたので、安心して会議や発送作業を続けました。晩の七時過ぎようやく終わりましたので、もう電車も走り出したのであろうと西口へ行ってみたところ、全線ストップでいつ回復するかわからないという。バスもタクシーも来ない、待ち客の長蛇の列、携帯電話は不通、公衆電話も長蛇の列、仕方なく徒歩で帰路の途につきました。帰ってからテレビを見ましたら、あわや地獄図のようでした。  
 この辺は大きな被害が出なくてホッとした。その後、原発の事故やら、台風の襲来と日本列島は過去にない災害に襲われてしまいました。私たちは平凡に暮らしていますと、不満こそ口に出していますが、こういう災害があつて改めて命のありがたさ、平凡な暮らしのありがたさを痛感いたしました。  
 被災されましたかたがたには心からお見舞いを申し上げ、一日でも早い立ち上がりを祈願申し上げます。

# 第三十六回涅槃会開催

## 於 円満寺 西区仏教会担当

第三十六回当会の主催の涅槃会が平成二十三年二月九日（水）に西区仏教会担当で、西区久保町寺谷五〇―一の天台宗円満寺様を会場として開催された。

阿富貴山安禅院円満寺は天台宗延暦寺末、本山別格の寺院で、元は比叡山延暦寺、東塔北谷に位置し、延暦十三年の創建後、度々の火災で焼失し、再建されてきたが、明治三十七年の焼失後、安禅院の名簿を残し、関東大震災慰霊のため、横浜に昭和三年に移転した。移転後の中興一世は西郊豪頭師で、平成二年に新本堂が落慶された。現住は西郊良光師である。

当日は明け方に雪まじりの小雨が降って心配された天候も日中には晴れて、暑過ぎる位となった。僧侶四十五名、檀信徒五十五名の百余名の方々が参集された。

午後一時半に導師・式衆入堂、市仏連副会長・山本信行師の開式の言葉で始まる。一同三礼、三婦依文唱和、導師、玄野孝善市仏連会長の表白文の奉誦、誦経・観音経普門品偈・舍利礼文、この間に焼香、回向、一同三礼、導師・式衆退堂。

第二部、式典、挨拶、玄野孝善市仏連会長、美濃口久義市仏連釈尊奉讃会長、都築哲信県仏副会長、横山正彦西区仏教会長。講師の紹介が円満寺西郊副住職よりあり、

午後二時四十分頃、講師の塩入亮乗先生が登場、『仏教行事と民間信仰』と題して、約一時間講演された。内容は別記参照。涅槃会の見方・盆・正月・彼岸会、弔い、

### 講演録

## 「仏教行事と民間信仰」

### 大正大学講師 塩入亮 乗師

【涅槃図の絵解き】  
本日は涅槃会の法要が行われましたが、お寺では涅槃図を掲げてお参りし、古くから絵解きが行われてきました。

資料として紹介している涅槃図には、名前が入っている珍しいものですが、絵解きにも、様々な解釈があり、史実とは違う誤った絵解きがいっぱい使われてきました。

代表的なところでは、お釈迦様が「いよいよ涅槃にはいられた時、お母様の麻耶夫人は忉利天にいられたが、すつ飛んで来て、いよいよ命が危ないならばと葉袋を投げたところ、沙羅双樹の木に引っ掛かってしまった。それを取りに行こうと足が沢山あつて速いだらうと百足が出発したが一つ一つの足に足袋をはこうとして手間取り失敗、次の鳳は猫に邪魔されて動けず、とうとうお釈迦様は亡くなった。それ故、猫は涅槃図から外された」と云うのが定説ですが、それが間違いであります。

人生の諸通過儀礼等の身近な信仰行事の意味づけを話されたのでご聴衆は為になったようで、質問も沢山に出て盛り上った。

第二部は、ルフェ（打楽器パフォーマンスグループ）（出演者）阿井達也・マリンバ、岡真樹子・スチールバンドラム、柴田篤・打楽器、三等郷美・タップダンス。盛会のうちに無事円成した

お母様が投げたものは葉包みではなく、錫杖でした。錫杖というのは、山伏たちが杖のように使う輪っかが沢山付いているものです。この錫杖にくくり付けられていたのは、衣や応量器といったような修行で使う道具で、お釈迦様に必要なものでお母様が落としたのだということが、あるお経に書いてあります。

次に、お釈迦様の足を脈をとっている人が普婆（ぎば）という主治医です。この普婆は名医で、例えば弟子の阿難の背中に膿ができたのを、お釈迦様の説法に心酔して聞いているうちに手術してしまっただけであるといわれています。

ところが、この普婆は、老婆の間違いでないかと言われるようになります。間違った涅槃図が描かれるようになります。老婆というのは、以前からお釈迦様を慕ってインド中を探し回り、出会えたのがご臨終の時だったという伝説です。このように普婆と老婆はしばしば

間違えられてきました。また、人物が五十二人、動物が五十二種類描かれていますが、間違った解釈のために、涅槃図には猫を描かないのが通説のようになっていきます。しかし、京都の建仁寺の涅槃図など、猫が描かれています。お寺もあります。

このような絵解きが各お寺で行われてきた訳ですが、仏教を教えるというのと分かりづらいため、絵解きというのは大変便利でした。各お寺では、涅槃図を掲げてお参りに来られた方に、「絵を御覧なさい、この絵の意味はね」といって仏教を教えたのです。

【清めとしての行事】  
ところで、このような仏教行事にみなさんがなぜ参加するのかといいますが、根本は、罪などを払うということが目的と言われています。

お坊さんたちは、修行の道場で毎月十五日と三十日に、お堂に集まって、みんなの前で、「昨日の問答を私は怠けましたとか告白しなければなりません」とか、「これを布薩といい、みんなの前で懺悔しなければならなかったのです。神社では「赦え給え」という言葉があります。それと同じように、「清め給え」なのです。神社とお寺というのは、発想的には日本人のもので、とても似通った発想で、日本人にマッチしているのです。

また、調べてみると納得できる言葉に、氣持ちの「氣」という言い方があります。「氣」というものは、本当は生まれたときに「純粋な意味で「清らか」なのです。元々は非常に丈夫なものなのですが、ちよつと弱まってくる場合があります。そういったことを何と

いうかというのと、「病氣」というのがだんだん弱くなってくると、これが「弱氣」という言い方をするわけです。「病氣」は、元に戻してあげればいいわけです。つまり、元の氣に戻ると、「元の氣になった」と言って「元氣」と言うわけです。

また、「氣」というのは、人それぞれが持つていて、別の人とうまく合致する場合もあれば、しない場合もあります。合致すると「氣が合う」と言います。「氣が合わない」と言います。「氣が合わない」と人とお話するときが辛いんですね。氣が合わないで、いやだなと思つた人はみんな毒を持つていますから、「毒氣に当たる」、「毒氣にやられる」と言いますね。つまり、他人の「毒氣」が自分の中に入り込んだ訳で、自分の中に入れてはいけないことを「氣にしない、氣にするな」と言うのです。

このように「清めていこう」というのが日本人の考え方です。清まつていけば、病んでいないのです。なぜ私は病氣になったのか。それは結局、何か無意識に罪を犯したかも知れない。だから、苦行をやれば良いのだという考え方が日本人にはありました。苦行と云うのは歩くことだったので、そういうことでお遍路という信仰

が生まれました。しかも仏様と歩いて、この苦しみを負えば体の中の罪悪感はなくなるのだ。と。そうすれば、「元の氣に戻るのだ」そういう考え方で「元氣」になれたのです。

【生まれ変わる行事】

このような動きの中で、日本人は「切り替わる」ということも重視して参りました。三月の十三日に「切り替わり」の行事があります。十三参りです。

十三参りと言うのは関西で非常に盛んで、ある意味の成人式なのです。干支と言うのは十二支です。十三歳になるということは、元の自分の干支に戻るということです。そうするとある意味で「生まれ変わり」なのです。大人になりますと十二年ごとの意識は薄くなつていきますが、六十歳になると生まれ変わりの儀式が重なります。十干、十二支が組み合わせると六十種類で戻り、「暦が戻る」つまり「還暦」と言う訳です。

「生まれ変わる」ということで、すので、赤ちゃん色ということ、「赤いちゃんちゃんこ」の風習も生まれました。十三歳も同じ意味で、今までの自分が死んで、新しい成人式を迎える訳なのです。

十三歳と言えば、女子の場合には体の変調を起す時期でもあります。そういう時に、虚空蔵さんにお参りに行くというのが、関西では流行っています。

京都の嵐山にある「虚空蔵さん」として有名な法輪寺には、「渡月橋」という橋がありまして、渡る

ときに絶対振り向いてはいけないう決まりがあります。これは、法輪寺さんで加持してもらい、授かった智慧が戻されないようにという儀式なのです。虚空蔵さんの授けた智慧は、生活に密着して工夫された生きる技術的な智慧なのです。そのため、虚空蔵さんには、漆や西陣織の業者が、技術的な智慧を

す真似事」をする行事があります。「子供の自分を落として、大人の自分に生まれ変わる」生と死の入れ替へなのです。いったん死んだことにしてしまふ。これが十三歳に行われて、子供から大人に生まれ変わるわけなのです。

【絆を深める行事】

四月八日は、お釈迦さまの誕生

つ時いたらよいか、迷っていました。そうしたら、四月八日はすべてのが生まれる日だということとがわかつたために種時の日に採用していくのです。縁起の良い日で全てが生まれ、芽が出てくる日なのです。

ところが、江戸時代になると本当に適しているのは八十八夜とい



「勝尾寺版涅槃図」元興寺蔵

「勝尾寺版涅槃図」元興寺蔵

【仏教行事の意義】  
このように、民衆というのは、ある意味では仏教行事というのを、単に行事だけを伝えるのではなく、このときにはこのように親子の絆を固めなさいよ、と言つて実はお寺が教えていたのです。お寺の行事で、お釈迦様はね、と言いな

が、実はそれをかこつながら、家族仲はこうあるべきなんだと、そういう教えが根付いてきたのです。だから、民間信仰的には、私

たちはその行事に参加することによって、罪が滅せられた、仏さまのお守りによって罪が滅せられるのだ、罪さえ滅せられれば病気が治る。もし、願い事がかなわない

のならば、それは自分に罪があるかも知れないからなのだ。そういうような考えがあつたのです。ある意味では寺院で行われる年中行事というのは、当たり前

の慣習の行事を通して、自分中心で見ることを離れ、他の見方を学ぶ場でもあるわけです。ですから、昔のお寺さんというのは、単に行事をやっているのではなく、必ずそこに説法が付き、何か今日は良いことを一つ聞いたよ、というよう

な学びの場であつたわけです。そして、気持ちが悪くなり、軽い気持ちになつてお帰りたいだくのお寺の行事の意味合いだつたので

ございます。このように、お釈迦様の誕生日、

うことになりました。お茶だと思つていましたが、八十八、米の字で、お米の目にふさわしい日と考えられたものと思われま

日です。この誕生日にはいくつかの意味があります。

平安時代に書かれました『三宝絵詞』という本には、四月八日は「すべてのものが生まれ始める」というふう

に解説されています。万物が生まれ目出度い日だということが日本に根付き、農民が活用しました。農民は、お米の種をい

ていまして、お米の目にふさわしい日と考えられたものと思われま

す。『三宝絵詞』に出てくるもう一つの意味は、お母さんに対する感謝の日、母の日だつたとい

うことになりました。お茶だと思つてい

**質疑応答**

Q. 喪に服すといいますが、仏教的に喪という考えはあるのですか。

A. 中国では、悲しみを切り上げるという意味がありました。日本では、魂が荒々しくなるという意味合いがあり、その魂を鎮めるとい意味合いがありました。これを「もがり」と呼んでこれが喪に服す意味がありました。このような特殊な状態のときを忘（いみ）

と呼んで、重たい気持ちから軽い気持ち、落ち着かせる必要がありました。気を転換させて、元にもどすという意味が「喪明け」にはありました。

Q. 月の満ち欠けに関係するとい意味で、二十三夜参りというのも関係があるのですか。

A. はい、月待ち講、日待ち講と言われて月に関係した行事が行われてきました。

# 第三十八回総会開催

平成二十三年五月二十五日（水）午後一時より理事会、引き続き午後二時より、当市仏連の第三十八回総会が、西有寺にて開かれた。次第は次の通りである。

- 一、開会の言葉 山本信行師
- 一、会長挨拶 玄野孝善師
- 一、来賓挨拶 都築哲信師
- 一、議長選出 市川智彬師
- 一、議案審議
  - (1)平成22年度事業報告(林田)
  - (2)平成22年度決算報告(秋山)
  - (3)会計監査報告(佐伯)
  - (4)以上承認の件(議長)
  - (5)平成23年度事業計画案(林田)
  - (6)平成23年度予算案(秋山)
  - (7)選考委員会報告(河本)
  - (8)次期会長並びに役員改選及び承認の件(議長)
  - (9)新役員紹介並びに挨拶(別掲)
  - (10)横浜市釈尊奉讃会の件(程木)
  - (11)その他
- ・東日本大震災に関する件(林田)

・60周年記念行事決算と実行委員会解散式について(玄野)

・ホームページ開設の件(関水)

・時局対策委員会活動報告(三浦)

一、閉会の言葉 横山正彦師

冒頭の挨拶で玄野会長は、昨年の周年行事に協力いただいたことへの感謝の言葉を述べられ、東日本大震災の日が、決算報告の準備のための会合であったことに触れ、犠牲者の方々への哀悼の言葉を述べられた。

本年は役員改選の年に当たり、選考委員の各師により選考が為されて来た。選考委員は、緑・青葉区の河本岡文師、泉区の関水俊道師、保土ヶ谷・旭区の高嶋善隆師、神奈川区の守長尚文師であった。選考結果の報告を、河本岡文師が行い、会長の玄野孝善師、副会長の山本信行師が留任、新副会長に横山正彦師が選出され、承認された。また、監事には、理事会に於

て佐伯隆義師が再び選出され、永く会計を務められた橋下賢明師が推挙され、それぞれ承認された。他の役員については、後日、会長が指名した。(別表参照)

なお、役員改選にあたり、時局対策委員については任期の取り決めがなく、長年の御苦労に感謝すると共に、役員任期と合わせる案が出され、検討することとなった。

釈尊奉讃会の補強については、現在の会員の会費負担を軽減し、各寺が賛助費として負担する案が執行部より提案され、後日、市仏連、奉讃会とで協議して行くことが申し合わされた。

六十周年記念行事の決算が三月末に為された報告があり、余剰金については、有効に活用する旨の説明が実行委員長より為された。東日本大震災への義損金とも併せて勘案する旨の提案が為され、承認された。

また、情報化が進む現代に対応すべく、ホームページの開設が会報担当理事より提案され、広報担当理事として、役員の増強する案が出され、承認された。



## 平成22年度時局対策委員会事業及び収支報告書

回数	通	委員	日	大園
① 第1回	(通77)	委員会	6月16日	大園寺
② 第2回	(通78)	委員会	8月19日	大園寺
③ 第3回	(通79)	委員会	9月10日	大園寺(發送)
④ 第4回	(通80)	委員会	10月5日	大園寺
⑤ 第5回	(通81)	委員会	11月19日	大園寺
⑥ 第6回	(通82)	委員会	23年1月26日	大園寺
⑦		葬儀アンケート実施	472通	

収支決算書	
収入	前年度繰越金 877,129 (協賛金 431,654)
	委員会費 100,000
	利子 476
	合計 977,605
支出	電話代 34,210
	ホームページ維持費 35,700
	アンケート集計印刷費 66,998
	封筒・他 11,090
	送料 51,440
	会場費6回 30,000
	合計 229,000
次年度繰越金	¥748,167 (協賛金 431,654)

以上ご報告いたします  
平成23年3月31日 委員長 佐藤功岳

## 執行役員名簿

- 会長 長玄野孝善
- 副会長 山本信行
- 副会長 横山正彦
- 専務理事 林田真成
- 副専務 秋山智謙
- 会計補佐 中村重和
- 会報担当 前村恭忍
- 会報担当 備前俊道
- 会報担当 関水清紀
- 広報担当 齋藤清也
- 広報担当 藤野哲也
- 時対委員長 佐藤功岳
- 監事 橋下賢明
- 監事 佐伯隆義
- 釈尊奉讃会 長美濃口久義
- 副会長 和田大雅
- 副会長 星野英秀
- 事務局長 程木昭徳
- 事務次長 守長秀文
- 相談役 程木徳明

## 区仏会長名簿

- 鶴見区 建功寺 榊野俊明
- 神奈川区 本覚寺 守長尚文
- 西区 光源寺 渡辺賢
- 中区 大圓寺 佐藤功岳
- 南区 興禪寺 市川智彬
- 保土ヶ谷区 浄性院 高嶋善隆
- 磯子区 真照寺 水谷栄寛
- 金沢区 正法院 友繁照雄
- 港北区 妙蓮寺 山本玄征
- 都筑区 福聚院 齋藤清紀
- 緑青葉区 満蔵寺 河本岡文
- 戸塚区 専念寺 伊藤彰哲
- 瀬谷区 西福寺 備前恭忍
- 泉区 東泉寺 関水俊道
- 栄区 正翁寺 篁素明

横浜市仏教連合会 平成23年度歳入歳出予算書 (案)

歳入金 2,016,162円
歳出金 2,016,162円
総括表 差引額 0円
(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include 1. 会費収入, 2. 雑収入, 3. 繰越金, 4. 前年度繰越金, and 合計.

郵便振替 金 57,690円
郵便貯金普通 金 95,540円
現金 金 216,932円
繰り越し金額 金 370,162円

横浜市仏教連合会 平成22年度収支決算報告

歳入金 2,049,742円
歳出金 1,679,580円
差引額 370,162円
(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差引増減. Rows include 1. 会費収入, 2. 雑収入, 3. 繰越金, 4. 前年度繰越金, and 合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include 1. 総務費, 2. 運営費, 3. 事業費, 4. 助成金負担金, 5. 雑支出, 6. 予備費, and 合計.

平成23年4月28日

上記のとおり歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 荻野孝幸

会計 橋下賢明

会計 秋山聖謙

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差引増減. Rows include 1. 総務費, 2. 運営費, 3. 事業費, 4. 助成金負担金, 5. 雑支出, 6. 予備費, and 合計.

総収入2,049,742 総支出1,679,580=繰越金370,162

次年度繰越金 370,162円

特別預金 ゆうちょ銀行 定期金 5,681,000円

平成23年4月5日

上記のとおり収支計算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 荻野孝幸

会計 橋下賢明

会計 秋山聖謙

監査の結果相違ないことを認めます。

監査 福田俊光

監査 佐伯隆哉

祈 東日本大震災 復興

横浜市仏教連合会顧問

法華宗陣門流勸行寺住職

都 築 哲 信

〒220-0002 西区南軽井沢九  
電話三一―三五五七

横浜市仏教連合会顧問

臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230-0077 鶴見区東寺尾一―一八―一  
電話五七―一―一七〇一

横浜市仏教連合会会長

曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241-0822 旭区さちが丘五九  
電話三九―一―一三七九

神奈川県仏教会会長

天台宗観音寺住職

本 間 孝 康

〒221-0853 神奈川区三ツ沢東町八―二  
電話三一―一―五九六〇

横浜市仏教連合会副会長

高野山真言宗長王寺住職

山 本 信 行

〒224-0053 都筑区池辺町二八二七  
電話九四―一―一三六七

横浜市積尊奉讃会副会長

真言宗御室派龍華寺住職

和 田 大 雅

〒236-0028 金沢区洲崎町九―三―一  
電話七〇―一―六七〇五

横浜市積尊奉讃会副会長

高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244-0842 栄区飯島町二―一四九  
電話八九―一―一七〇一

横浜市仏教連合会監事

浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒234-0056 港南区野庭町六四三  
電話八四―二―七二八八

横浜市仏教連合会会計担当

日蓮宗妙光寺住職

秋 山 智 謙

〒246-0006 瀬谷区上瀬谷町八―三  
電話三〇―一―二九八九

横浜市積尊奉讃会事務局長

曹洞宗東照寺住職

程 木 昭 徳

〒223-0026 港北区綱島西一―一三―一五  
電話五三―一―一七八三

横浜市仏教連合会専務理事

浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒240-0004 保土ヶ谷区岩間町二―一四〇  
電話三三―一―〇六〇七

<p>横浜市仏教連合会理事 磯子区仏教会長 高野山真言宗真照寺住職</p> <p><b>水谷 栄寛</b></p> <p>〒235-0016 磯子区磯子八―一四―一二 電話 七五三―一五一四七</p>	<p>横浜市仏教連合会元理事 天台宗宝塔寺住職</p> <p><b>榎本 昇道</b></p> <p>〒230-0012 鶴見区下末吉六―一二五 電話 五七一―一四六〇</p>	<p>横浜市仏教連合会副会長 曹洞宗萬徳寺住職</p> <p><b>横山 正彦</b></p> <p>〒220-0031 西区宮崎町三二 電話 二四二―四五三三</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 神奈川区仏教会長 曹洞宗本覚寺住職</p> <p><b>守長 尚文</b></p> <p>〒221-0057 神奈川区高島台一―二 電話 三二二―〇一九一</p>
<p>横浜市仏教連合会理事 金沢区仏教会長 真言宗御室派正法院住職</p> <p><b>友繁 照純</b></p> <p>〒236-0042 金沢区釜利谷東三十四―二四 電話 七八一―二四八四</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 緑・青葉区仏教会長 高野山真言宗萬藏寺住職</p> <p><b>河本 冏文</b></p> <p>〒226-0012 緑区上山二―一五―一二 電話 九三一―一五七三</p>	<p>横浜市仏教連合会広報担当理事 都筑区仏教会長 高野山真言宗福聚院住職</p> <p><b>齊藤 清記</b></p> <p>〒224-0053 都筑区池辺町二二九六 電話 九三一―一三六六</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 港北区仏教会長 日蓮宗妙蓮寺住職</p> <p><b>山本 玄征</b></p> <p>〒246-0006 港北区菊名二―一―一五 電話 四三一―四四四一</p>
<p>横浜市仏教連合会御用達 (株)ピーエス観光神奈川社長</p> <p><b>真川 明</b></p> <p>〒240-0022 保土ヶ谷区西久保町一―四 公園ハイツ二―一―一八 電話 三三四―三四〇〇</p>	<p>横浜市仏教連合会顧問弁護士</p> <p><b>遠藤 隆也</b></p> <p>〒221-0022 (自宅) 神奈川区白幡上町一八―三 電話 四三二―六一九二 〒110-0015 (事務所) 台東区東上野二―一八―七 電話 〇三―八三三―二八一九</p>	<p>横浜市仏教連合会広報担当理事 曹洞宗東泉寺住職・泉区仏教会長</p> <p><b>関水 俊道</b></p> <p>〒245-0017 泉区下飯田町七四三 電話 八〇二―八〇九七</p> <p>真言宗豊山派西福寺住職・瀬谷区仏教会長</p> <p><b>備前 恭忍</b></p> <p>〒246-0037 瀬谷区橋戸三―二―一二 電話 三〇一―六一三四</p>	<p>横浜市積尊奉讃会事務局 曹洞宗本覚寺</p> <p><b>守長 秀文</b></p> <p>〒221-0833 神奈川区高島台一―二 電話 三二二―〇一九一</p>



# 区仏だより

● 緑・青葉区

当会活動を報告します。平成二十二年十一月五日、神奈川県戦没者慰霊堂へ祭儀奉仕いたしました。萬藏寺・河本岡文会長導師、他八名出仕。次第は、観音経偈・般若心経・供養文。遺族会は、南区・小田原市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市。APECCの影響で道路は渋滞しましたが、好天に恵まれ多数の参列がありました。



隔年開催の一日バス仏跡参拝は、総持寺拜観・浅草昼食散策・スカイツリー建設見学・羽田国際線新ターミナル見学という内容で平成二十三年一月三十一日に開催しました。総持寺では雲水の案内を受



け、諸堂を拜観。参加者の印象に強く残ったようです。話題の観光地を盛り込んだこともあり、バス四台、百六十七名の参加がありました。

また、三月十七日には緑区宝塔院で神奈川県仏教会顧問弁護士・杉原光昭先生を講師に招き、会員研修の法律相談を予定しています。特に、遺言・後見人制度についてご講義いただきます。

四月二日土曜日には、緑区東観寺を会場として稚児練供養花まつりを開催します。

両区四十四ヶ寺の仏教会ですが、各事業への参加は毎度十名程度にとどまっております。会内活性化の願いも込めつつ寄稿いたします。

## ● 金沢区

仏教会長 友繁 照純  
当会は、窓から風が出たり入ったりするように、仏の教えと、地域文化との交流、心の癒しなど積極的に活動をおこし発信しております。

ます。

「慈光」布教、教化紙として、年二回（各五千部）を発刊して、第百二十五号を迎える事が出来ました。昨年は、金沢釈尊奉讃会五十周年を迎え、一千名を超える会員に半袈裟を配布致しました。「釈尊に帰依し、そのみ教えを光とおおぎ、自己の向上と社会の啓発をはかる」事を目的に掲げて、花まつり、バス参拝旅行、仏教文化講演会、交通安全祈願、追悼法要など、仏教会と仲よく「両輪」の如く活動を続けております。その他、寺務研究会、古寺参拝旅行、親睦会など独自の活動も行っております。

災いは忘れた頃に来ると申しませんが、霧島山系の新燃岳の噴火とニュージブラントの地震による被災者の義損金など支援に取りかかりました。また、環境崩壊が進んでいる中、寺院境内の樹木は古木からの貴重な贈り物です。銘木、古木の指定以外、それぞれのお寺の境内に有る樹木の「名札」を、二十六ヶ寺、百六十枚程を取り付けました。文明が高度に進んだ現代、多くの方々がお寺にお詣りして、心の癒し「仏心、安心」を戴ければ大変有り難いと思っております。

## ● 泉区

上飯田町の無量寺（浄土宗）では小川真弘師、和泉町の長福寺（臨濟宗円覚寺派）では橋本良淳師が前任職御退任に伴い、それぞれ新任職に就任されました。また、下

飯田町東泉寺（曹洞宗）では、前任職、元泉区仏教会長として尽力いただきました関水宗孝師が、四月に遷化（88才）され、八月には奥様（91才）が相次いで逝去されました。

## 計 報

四月に大本山総持寺貫首を退任されました元市仏連名譽会長大道晃仙禪師が、平成23年6月25日に、世寿93歳にて遷化されました。

また、9月9日には、西有寺住職横山敏明師のご母堂、横山志げ様が95歳にて逝去されました。

## 涅槃会担当区予定

- 平成24年第37回 磯子区仏教会
- 平成25年第38回 神奈川区仏教会
- 平成26年第39回 緑・青葉区仏教会
- 平成27年第40回 保土・旭区仏教会

## 泉慰霊堂出仕当番表

- 平成24年4月 港北区仏教会
- 平成24年6月 金沢区仏教会
- 平成24年10月 中区仏教会
- 平成24年11月 保土・旭区仏教会
- 平成25年4月 鶴見区仏教会
- 平成25年6月 戸塚区仏教会
- 平成25年10月 栄区仏教会

## 総会議長担当区

- 平成24年第39回 西区・磯子区
- 平成25年第40回 港北区・金沢区
- 平成26年第41回 中区・保土ヶ谷区

## 編集後記

▼平成23年3月11日、午後2時46分、東日本沿岸全域に及ぶマグニチュード9の大地震は、大大惨事をもたらした。あれから八ヶ月を経た十一月現在の被害は、死者一万五八三五人、行方不明者三六六四人、避難者七万一千五六五人である。地震と津波によって福島原子炉は被災し、高濃度の放射能拡散、汚染の収束はままならず、日本存亡の大危機の局面を迎えている。

▼大災害を前にして、僧侶にとって何ができるのか。金沢区仏では募金を神奈川新聞社へ持参されたことが写真記事として掲載された。栄区の某住職は犠牲者追悼の為、毎日読経することを自己に課しているという。また別の区の住職は、震災による死亡者の新聞記事を目にする毎に、香に燻らせて名前を読み上げ回向されている。

▼都内の宗教者の会が被災地の仮設住宅で、線香やローソク、香炉を配った。仏具は賛同する葬儀社や寺院から寄せられたものだ。「生きるには祈りも必要、被災者の祈りを支援したい。」（読売新聞）

▼被災地では、先祖の弔い、供養をいかに行うかが問題となっている。医療だけでは遺族の心は支えられず、祈る心や宗教性を持ったケアが必要だと声が高まり、葬儀の意味や重要性が再認識されている。そもそも葬儀は「死」を丁寧に扱ってほしいという人間の根源的な願望に込えているからだ。（読売新聞）